

〔病理診断科〕

研修の特徴と内容

【特徴】

病理診断科では、臨床各科から提出される病理組織材料・細胞材料の診断を行い、外科系各科からの術中迅速診断に対応し、また臨床各科から依頼される病理解剖を行っている。このため病理診断科の研修では、ほとんどすべての診療科にまたがった幅広い疾患について経験できうという特徴がある。各診療現場において病理診断がどのような位置づけにあり、どのように診療に貢献しているのかを目の当たりにできる。これは、病理医を志すものだけでなく、将来他科を目指すものにとっても有意義なものと考えられる。

【内容】

① 一般目標

各種病理診断を診断や治療に活用できるように、生検・手術材料の組織診断、細胞診、術中迅速診断、病理解剖という主要な病理業務の内容・手技を理解し、実際に病理診断業務に参加することで、診療現場における病理診断の位置づけや重要性について理解する。

② 行動目標

1. 病理組織標本の作成手順を説明できる。
2. 細胞診標本の作成手順が説明できる。
3. 術中迅速病理組織診断標本の作成手順が説明できる。
4. 手術材料の肉眼所見の取得を適切に実施できる。
5. 手術材料の切り出し方について説明できる。
6. 手術材料の切り出しを適切に実施できる。
7. 基本的な病理組織標本の診断を適切に実施できる。
8. 病理組織診断書を適切に作成することができる。
9. 基本的な細胞診標本の診断を適切に実施できる。
10. 細胞診検査報告書を適切に作成することができる。
11. 各科との術前術後カンファレンスにおいて適切な病理所見の説明ができる。
12. 病理解剖を行うにあたり必要な書類について説明ができる。
13. 病理解剖を行うにあたり遺体および遺族に対する配慮ができる。
14. 病理解剖の基本的な手技を実施できる。
15. 病理解剖における肉眼所見の取得を適切に実施できる。
16. 病理解剖報告書を適切に作成することができる。
17. 剖検症例の臨床病理検討会において病理所見について適切に説明できる。

③ 研修内容

1. 病理組織標本・細胞診標本・術中迅速病理組織診断標本の作成手順について臨床検査技師が実際に行っている作業を見学し、説明を受ける。
2. 上級医の手術材料の切り出し作業に同席し、肉眼所見の取得や実際の手術材料の切り出し方について説明を受け、十分に理解できた段階でその指導のもとに肉眼所見の取得や実際の手術材料の切り出しを行う。

3. 上級医から基本的な病理組織診断の考え方・手法について説明を受けると共に、実際に自らも病理組織診断書を作成して上級医から指導を受け、さらに指導医からそのチェックを受ける。
4. 細胞検査士から基本的な細胞診断標本の見方について説明を受けると共に、実際に自らも細胞診標本を鏡し、上級医および指導医からそのチェックを受ける。
5. 各科との術前術後カンファレンスに出席して上級医の病理所見の説明方法を学び、十分にそれが理解できた段階で上級医・指導医の指導のもとに自らも病理所見の説明を行う。
6. 病理解剖を行うための準備について上級医から説明を受け、実際に病理解剖の実施に立ち会って基本的な手技を見学し、自らも病理解剖を実施する。標本の切り出しを上級医と一緒にを行い、病理解剖報告書を作成する。上級医・指導医から内容に関して指導を受け、その指導のもとに剖検症例の臨床病理検討会において病理所見について説明する。

④ 教育に関する行事

- 月 指導医による組織診・細胞診の診断指導、術中迅速診断、手術材料の切り出し、病理解剖抄読会、泌尿器病理合同カンファレンス、上部消化管合同セミナー
- 火 指導医による組織診・細胞診の診断指導、術中迅速診断、手術材料の切り出し、病理解剖乳腺合同セミナー
- 水 指導医による組織診・細胞診の診断指導、術中迅速診断、手術材料の切り出し、病理解剖病理解剖症例検討会 (Clinicopathological conference)、大腸癌合同セミナー
- 木 指導医による組織診・細胞診の診断指導、術中迅速診断、手術材料の切り出し、病理解剖
- 金 指導医による組織診・細胞診の診断指導、術中迅速診断、手術材料の切り出し、病理解剖皮膚臨床・病理セミナー
- 土 1・3週は指導医による組織診・細胞診材料の診断指導、手術材料の切り出し、病理解剖

⑤ 研修評価

1. 自己評価
2. 指導医による評価
3. 臨床検査技師・細胞検査士からの評価
4. 研修内容の評価

指導医等

主任教授：廣田 誠一	教授：中正 恵二	講師：松田 育雄
講師：井出 良浩	講師：中込 奈美	助教：土田 泰昭

研修実施責任者

主任教授：廣田 誠一